

審議会等会議録

審議会等の名称	平成29年度第2回山口市立図書館協議会
開催日時	平成29年9月26日（月曜日）10:00～12:00
開催場所	山口市役所別館 第1会議室
公開・部分公開の区分	公開箇所
出席者	安光会長、吉村副会長、糸長委員、大野委員、大林委員、國弘委員、田坂委員、中原委員、中村委員、原田委員、山口委員
欠席者	牛見委員
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	1 協議事項 （1）第三次山口市図書館サービス計画の策定について （2）その他
内容	<p>○会長</p> <p>皆様おはようございます。今日は朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>今日は、第三次山口市立図書館サービス計画について皆様方に御審議をいただきたいと思っております。その後、第1回の協議会に出された質問や意見、それに対する御回答等をいただきたいと思いますので、忌憚のない御意見等を頂戴できればと思います。</p> <p>それでは、第三次山口市図書館サービス計画について事務局より御説明をお願いいたします。</p> <p>○事務局</p> <p>それでは、御説明をいたします。</p> <p>資料2の1、2の2、2の3、2の4、2の5を御用意いただきまして、また教育振興基本計画の概要版も配布しておりますので、こちらのほうを御覧いただきたいと思います。</p> <p>まず、今回は三次の図書館サービス計画です。二次の計画が今年度末で終了しますので、それに当たりまして、三次の計画を策定することになっております。</p> <p>序章といたしまして、計画策定の趣旨でございます。これまでの取り組みですが、一次計画を策定し、小郡や秋穂図書館の新館の開館、そして学校図書館の支援サービスなど、全域への効率で効果的なサービスの実施とサービス面の維持向上を図ってまいりました。</p> <p>また、平成24年の3月に二次計画を立てまして、旧阿東町との合併等もございまして、阿東の図書館の新館開館、移動図書館の増車、システムの一元化などにより、利便性の向上等を図ってまいりました。また学校図書館の機能強化なども進めてきた</p>

ところでございます。

三次計画では、これまでの貸し出し中心のサービスに加えて、憩いの場であったり交流の場としての図書館の役割や、地域課題解決への支援、市民の生活課題への支援も重要になってきているという視点を加えております。

また、図書館を取り巻く社会状況でライフスタイルの多様化、高度情報化社会の進展、少子高齢化など、その変容に伴って市民から図書館に求められるものが変わってきたり、また増えてきたりという部分もございます。そのような変化にも対応していくということも求められております。

こうしたことを踏まえまして、新しいサービス計画を策定しサービスの方向性を示したり、目標等を設定して進めていくもので、これが計画策定の趣旨でございます。

次が計画の位置づけとしております。山口市総合計画が上位の計画でございます。今、まさに策定中でございます。その部門計画という位置づけになっております。そのほかの関連計画といたしましては、山口市教育振興基本計画と生涯学習基本計画というのがございます。後ほど、それぞれの計画でどのように図書館部分がうたわれているかというのも説明いたしますが、このような位置づけとなっております。計画の位置づけについては以上です。

続きまして、2ページに参りまして、計画の期間でございます。二次の計画でも5年間の計画としておりましたので、3次の計画でも5年間の計画としたいと思っております。山口市総合計画も前期計画、後期計画と基本計画は分かれています。また教育振興基本計画も5年間と聞いております。生涯学習基本計画については10年間の計画となっております。

続きまして、現状と課題です。

山口市の状況、図書館の状況、それと二次計画の検証というあたりをこの項目で御説明をさせていただきたいと思っております。

まず、山口市の概況ですが、御存じのとおり、面積1,000平方キロメートル以上でございます。県下では最も広い行政区の面積を持っているということになります。人口につきましては、国勢調査値(27年度)19万7,422名ということで、今後は緩やかに減少していくという予想がされております。

先ほどの序章のところでもございました65歳以上の人口が増加、また少子高齢化が進んでいる状況です。中山間や臨海地域においては、ほかの地域より早いペースで人口が減少、そして少子高齢化が進むということが予想されているということで、下のグラフを見ていただけたらと思っておりますが、人口推移と地域別人口を載せております。高齢人口が増えていくというのが見てとれますし、年少人口が減っていくというのも見えてとれると思っております。地域別人口につきましては、山口地域や小郡地域では平成27年度と37年度を比較いたしますと、山口地域では3.5%減、小郡地域では1.3%減というような推計になっておりますが、そのほかの地域については、20%であったり、10%近くであったり、減少していく推計が出ているところです。山口市の現況、面積と人口については以上でございます。面積につきましては、山口地域

に次いで、徳地地域、阿東地域の面積が広く、約300平米で大きな面積を有しているというところがわかるかと思えます。

続きまして、3ページに参りまして、交流人口でございます。

人口は、右肩下がりで少なくなっておりますけれども、山口市に来られる方というのが、年々増加しているというところも、出ております。本市の日帰りや宿泊観光客合わせて、平成28年度につきましては、471万人強来ておられます。また、県央連携都市圏域内というのがございますけれども、山口市、宇部市、防府市、周南市などで構成しております、平成26年度以降、エリア内の交流人口は年間1,300万人となっております。様々な取り組みによって、交流人口が増えている状況になっています。

続きまして、下が、交通網と交通手段ということで、道路の状況、鉄道の状況などをお示ししております。

また中段から下のほうで、交通手段につきましては、皆さんもそうであろうかと思いますが、やはり通勤通学また買い物のための外出等では自動車を使われる方が圧倒的に多いというようなアンケートの調査が出ております。

また、公共交通機関の利便性につきましては、その下を書いてありますが、山口市でも担当部局が努力をいたしまして、コミュニティ交通というものも少しずつですが、利便性が向上しているという部分がございます。

そういった交通の利便性も向上してきているということと、自動車を使われているというようなことが見てとれるところでございます。

続きまして、4ページでございます。「日本一本を読むまちづくり」ということをうたいまして、さまざまなサービスの創出に努めているところで、現状としてどうなっているのかということをお示しいたしております。

今本市が目指すところの中核市、人口20万以上の都市で中核市となりますが、それが今全国で48市ございます。その中で1位にしていこうというようなことを(数値)目標としているところです。このような中で、山口市立図書館は、平成27年度として比較いたしますと全国1位が8.9点、市民1人当たりの1年間の読む本の冊数が8.9点、山口市は7.5点と少し開きがございます。5位とか6位とか7位とか、そのあたりの順位にあたるところにいるところでございます。現状としては「日本一本を読むまちづくり」としては、このような状況になっております。

続きまして、財政状況です。山口市の全体の財政状況でございます平成29年度の一般会計予算は890億円となっております、前年と比べると6億円の増となっているところです。財政状況につきましては、以上でございます。

5ページを御覧ください。ここは二次計画の検証について掲げております。基本的な方針、基本的な視点、このあたりは二次計画に掲げているものでございます。子供から大人まで本と出会う機会をできるだけ多くしていくのが大切という視点と、地域の文化や活動を支える人づくりの支援というのが大事というところでございます。

基本的な視点としては、4つ挙げておりまして、生涯学習の視点、情報提供の視点、

サービスの視点、まちづくりの視点ということで、4つの視点をもって図書館づくりをしていこうという形になっております。これが現計画でございます。

続きまして、6ページでございます。目指す図書館の姿につきましては、どんなときも身近に役立ち、出会いを大切にする図書館と二次計画ではしております。その意味としては、そちらに書いているとおりでございます。

次に、基本目標については3つ定めまして、地域を支える情報拠点として市民に役立つ図書館、次代を担う子供たちを支援する図書館、そして出会いを大切に市民とともに心豊かな人づくりを目指す図書館という、3つの基本目標をもとにさまざまな事業展開をしてきたところでございます。

続きまして、成果指標でございます。7ページ、二次計画におきましても、成果指標を設けまして、その事業、各事業の進捗状況、成果を図るような物差しを設定しております。全体としまして、4つの視点、指標を設定しております。

市民1人当たりの貸し出し点数と年間貸し出し点数、入館者数、蔵書冊数でございます。そのそれぞれがどのような状況になっているというのが、下のグラフになっております。市民一人当たりの貸し出し点数の目標が10点でございますので、なかなか難しい状況でございます。年間貸し出し点数も同様で、197万冊と目標はしておりますが、なかなか達成が難しい状況となっております。

8ページに参りまして、年間入館者数が170万人を目指しておりましたが、こちらも難しい状況です。

蔵書冊数につきましては、集中的に投資をいたしまして、70万冊到達の見込みとなっているところです。

資料番号が違っておりましたが、資料2の2をごらんください。それ以外の成果指標について、お示しをいたしております。下線を引いて太字にしているもの、移動図書館の利用者数、ホームページのアクセス件数、利用登録率というものが当初の目標を超えたものでございます。それ以外につきましては、なかなか到達が難しいであろうものというようなところです。飛躍的にこれが伸びるというのは難しいと思います。

ちなみに蔵書冊数については、目標に届くのではないかと、先ほども申したとおり、見込んでいるところです。

続きまして9ページに参りまして、二次計画の主な取り組みや課題をお示しいたしております。主なものだけ御説明いたします。

まず、利用サービスの拡充ということで、図書館システムを統一しまして、市内6館で統一したサービスができるようになったところです。

阿東の地域交流センター分館での利用登録、配本後の受け取り、返却のサービスを開始いたしましたところです。移動図書館を1台増車いたしまして、市全域を巡回できる体制が整ったということでございます。

5番の読書環境の整備・充実で、25年度に新阿東図書館を建設したというところでございます。

続きまして、課題といたしましてまず中山間地域、臨海地域などでサービスポイントが離れた場所では、やはり図書館が離れているということで、サービスの利用しやすさに差があるということを表しております。

10ページの読書環境の整備・充実というところで、日常的に利用できる施設としての機能が求められている、長時間滞在できる居心地のある雰囲気づくりや施設設備が必要という、これは市民アンケートにもニーズがあったということもございまして、そのあたりを課題として掲げているところです。

続きまして、施策の方向である幼児から読書のきっかけづくりとして様々な機会を通じて、子供たちに読書に親しむ環境づくりを推進するというところです。

ブックスタートにつきましては、これまで体験会に来られた方のみ（スタートパックを）配付しておりましたが、来られない方にも郵送による配付ということも始めております。

学校との連携強化ということで、調べ学習用の資料の充実を図るということもいたしております。

一つ下がりまして、市内の大学図書館と図書館の資料の相互返却も始めております。

子供向けのイベントとして、こどもワイワイ図書館は、6館で開催しているところです。

11ページに参りまして、課題②学校との連携強化ということで、調べ学習のための資料を増冊してほしいというような要望が出ているところです。また、高等学校や特別支援学校との連携がまだできていないところですので、まずは意見交換をするのが必要ではないかという考えになっております。

続きまして、次の11ページの下側です。本への出会いをつくり、利用者の拡大や活動支援など、市民との協働による図書館づくりを進め、心豊かな人づくりを推進するということです。

こちらにつきましては、今回（平成28年度に）市民意識調査を実施いたしました。次期計画を策定するということも踏まえた調査です。

イベント・講座の充実として、様々なイベントを実施してきているということです。主な取り組みとしては以上でございます。

12ページに参りまして、課題につきましては、まず1番が協働による図書館づくりの推進で、ボランティアの方や友の会の方と一緒に図書館づくりをしていくというのが大事ですということを掲げております。

4番のボランティアの育成です。これまで友の会の方などに関わっていただいておりますけれども、さらに広げていく必要があるのではなかろうかということで、課題に挙げております。

次に関連計画における図書館に関する政策、狙いです。まず山口市総合計画では、13ページの囲ってある下側です。本市においては「日本一本を読むまち」の実現を目指している。幅広い世代に向けて、また広域化した市域のどの地域においても読書

に親しめる環境づくりを進めるとともに、それが市民の読書活動としっかりつながるよう、ソフト面の取り組みにも力を入れていきますと総合計画の後期まちづくり計画では示しております。

また、山口市生涯学習基本計画、これは計画期間10年でして、具体的な図書館の部分はございませんが、生涯学習の推進をしていく中で、学習環境の整備充実というあたりになります。こういったところで図書館の充実もしていこうと、市民の学習活動を総合的に支援していく体制づくりを進めていこうというようなこととございます。

続きまして、14ページでございます。山口市教育振興基本計画、お手元に本日この概要版を配っていますが、読書環境を充実させるということが掲げられております。

主な取り組みとしては、図書館の機能強化、読書環境の整備、読書の支援の充実ということで、3つ挙げております。

次が、市民意識調査、資料の2の3でございます。昨年10月にアンケートの結果を、前委員さんには御説明をしていますが、この中で3ページにショッキングな結果が出ておまして、過去1年間に最もよく利用した図書館はどれかという質問に、中央図書館が一番になっていますが、どれも利用したことがないという方が5割弱の方がおられるという結果が出ております。

15ページ、右側の図18を見ていただきますと、今後図書館が重点的にすべきと考える機能サービスは何ですかという質問に、子供のための環境の提供や、大人のための環境の提供でというようなところが上位に来ているところです。

14ページの上の表の4、5を見ていただくと、子供が楽しく過ごせる空間や環境の提供、大人が豊かな余暇を有意義に過ごすための空間や環境の提供ということが多くなっていることがわかります。それ以外には、蔵書冊数の増加も上位に来ているという結果が出ております。

本文に戻りまして、15ページからは、図書館の状況を説明しております。

18ページには移動図書館、そして学校図書館支援センターの現状を記載しております。19ページについては、図書館関係の予算の推移を示しており、新館が開館しますと、少し予算も伸びるということもございまして、合併後の予算の推移をお示しいたしております。

続きまして、20ページから、現状なり二次計画の取り組みや課題を踏まえまして、三次計画で設定する主な課題をお示ししております。先ほども申しました、まず1番として、広域な市域を有しておりますので、その市全域をカバーするような図書館サービスの提供もまだまだ十分ではないという認識でおりますというところが、①のAでございます。次の①のイですが、システム更新を平成26年10月にいたしております。全館で共通のサービスや配本による本のやりとりをするなどのことは、単館のシステムではできませんので、全体をつなげたシステムが必要になっていきますし、それを随時更新していく必要があるというところがございまして、こちらも大き

な課題の一つと考えております。

次に②多様化する図書館の役割として、先ほどの現状でもお示ししました70万人を超える利用者がありますが、5割弱の方が市立図書館を1年間利用したことがないという結果が出ておまして、まだまだ十分に活用されているとは言いがたいので、しっかり使っていただくような取り組みが必要ということをごここにしております。②のイとして、地域資料を残していくということも図書館の重要な役割でございますので、そちらを網羅的に収集保存していくということがまだまだできていると言えない部分がございますので、徹底していきいたいということで課題として挙げております。

また、次の③でございます。新たな視点からの図書館サービスで、図書館のサービスの視点から、課題として捉えたものがございまして、貸し出し中心の従来の図書館サービスに加えまして、課題解決図書館というのも「図書館の望ましい基準」にも出てきているものですが、課題解決のサービスを提供していくということも新しいサービスとして求められているだろうということで、図書館側の体制も含め、市民にわかりやすく示していくということが大事になってきているということをご挙げております。また、③のイとして、利用者の視点から、先ほどのアンケートでもございましたとおり、ゆったりと過ごせる場というのも求められているというところで、気軽に本に親しめる場としての図書館整備というのも大事になってきているのではないかと、ここに挙げております。

次に、④です。当然来ていただいても、資料が古いようでは、すぐに利用者が離れていく可能性もございまして、70万冊という目標は達成いたしますけれども、アンケートの結果にもありますように趣味、教養、小説などの充実も求められているところです。いずれにしても、新鮮な資料を備える図書館として、資料の充実をさせていくというのは、必要なのではないかと、ここで、主な課題として挙げております。

幼児期からの読書習慣の形成ということをご⑤にしております。小学生の読書冊数は増加傾向にあると言われておりますが、中学校、高校では横ばいになっている。また学年が上がるにつれて、読書する冊数も少ないような状況になっておりますということで、そういった子供に読書習慣をつけるということが、まず重要であろうということで、ここに課題として掲げております。

最後に広報ということで、図書館のサービス自体、こんなサービスがありますよという広報は、やはりしていかなければならないということで、広報も重要ということで、主な課題として挙げております。

それでは、22ページを御覧ください。課題を踏まえまして、計画の全体像をお示ししております。市立図書館の基本的な方向を1番に挙げております。まず、将来にわたって、どういう図書館づくりをしていくかと、図書館への思いや願いを示していく項目としたいと思っております。基本的な方向を示すものです。

まず、市民一人一人が心豊かに暮らし続けられるよう支援する図書館、地域の文化や活動を支えていく人へ支援ができる図書館づくり、日本一本を読むまちづくりを進

める図書館づくりというのを基本的な方向にしたいと思っています。

2番目は市立図書館の基本的構想の目標です。図書館への思いや図書館を取り巻く状況を踏まえて、地域とともに実現に向けて向上していく目標をこちらに示したいと思っています。目指す図書館の姿、こちらは二次計画と同じにしておきまして、どんなときも身近に役立ち、出会いを大切にする図書館、これは二次計画を踏襲いたしております。次に、基本目標1として、地域を支える情報拠点として、利用者に役立つ図書館、基本目標2として、次代を担う子供の育成を支援する図書館、基本目標3については、市民の知的好奇心を刺激し、地域に潤いを与える図書館ということで、イベントなり講座なりということで、新たな利用者を開拓するというようなことも始めてきておりますので、そういったわくわくするような図書館にしていくということで、知的好奇心を刺激するという文言に変えております。地域に潤いを与える図書館ということで、アンケートにもございましたとおり、図書館に来てゆったりとくつろげるような図書館が欲しいなということが、アンケートにもございましたので、来られた方に潤いを与えられるような図書館にしていくというような夢を込めて地域に潤いを与える図書館といたしまして、3つの基本目標をここで掲げているところです。

個別サービス事業として、この3つの目標、この下に基本的な事業の取り組みを示していくということにしております。

まず、基本目標1には、5つの具体的な取り組みをしていく、基本目標2は3つ、基本目標3にはこの4つということで入れております。

右の23ページに参りまして、特に重点的に取り組む市民の満足度を高めるプロジェクト事業の展開の考え方を、プロジェクト事業としてお示ししていきたいというところです。

まず一つが、サードプレイスとしての環境整備プロジェクトということです。家庭ではない、仕事場、学校ではない、第3の居場所としてのサードプレイスとして図書館の環境を整備していくというようなことができないかということで、プロジェクトに挙げています。

蔵書の充実、さらに充実していくということと地域資料を網羅的にまだ収集できていないということがありまして、重点的に資料を集めていくということです。

また広域な地域をなかなか十分にカバーできていないところもありますので、どのようにカバーしていくというあたりを、市全域サービス充実プロジェクトということで進めていくということです。

電子図書館サービスの推進、近年のスマホ、タブレットで気軽にインターネットにアクセスできるような状況が整っておりますので、そういう中で電子図書館サービスを進めていくということも大事であろうと思います。こちらについても推進していくというプロジェクトを掲げていきたいと思っております。

行政支援サービスの推進でございます。行政の課題解決だとか政策立案に対して、少しずつでも支援していくということがまちづくりに貢献できるだろうということで、行政支援のサービスも今なかなかできておりませんが、進めていくという

ことを挙げております。

最後に学校図書館の支援、課題のところでありましたが、増冊が求められていたり、学校図書館の充実も、確かに学校から求められている部分もございます、そういったところを、図書館として支援としていくということを充実プロジェクトとして挙げております。

この7つを中心に、今のところ、プロジェクト事業として考えているところです。

わかりやすく体系図にしたものが、資料の2の4でございます。こういった体系にいたしまして、事業を進めていくという見方にいたしております。二次でも同じような体系図をつくっております。

次が図書館の役割やサービス範囲、これは二次と同じようにつくっております。

25ページでございます今後の策定スケジュールは、図書館と本協議会などで御意見をいただきながら、計画案をつくり、パブコメをいたしまして、最終的には教育委員会で決定するという流れでございます。

ただ、こちらのスケジュールにつきましては、かなりタイトなスケジュールになっておりまして、教育基本計画、生涯学習基本計画のスケジュールとあわせていくようになるため、あとに下がる可能性はございます。最短でこのぐらいということ考えていただけたらと思います。

計画の目次もつけております。こういう構成で今のところ考えているというところでございます。説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございました。特に20ページ、21ページの6、次期サービス計画での主要な課題というところ、それをもとに計画をつくられるということです。

22ページ、23ページの計画の全体像案、本目標1、2、3というようなところ、それからプロジェクト事業というのを掲げられているというようなところで、御意見等を頂戴できればと思います。

それでは、副会長口火を切っていただきたいと思います。

○副会長

市の財政の説明がされましたが、その中で、図書館の占める割合についてです。今後の見通し、将来計画の中で、財政面の見通しがどうなのかということ、まず一つ質問をしたいと思います。

少子高齢化と言われた中で、以前からこの話があったと思いますが、例えば老人施設、老人ホームから、学校などで行われているような貸出し（団体貸出）はどうかということ。老人施設、特に身体障害を抱えておられる高齢者の方々へのサービスということが、何らかの形で必要ではないかなと思います。もちろん具体的には、事前の調査など必要だろうと思いますが、その辺がどうなのかということをお聞きします。

もう一つは、電子資料のことを言われている。館内ではW I F I が通っていますかもし通ってなければ、整備計画があるのかどうか。

次に、お子さん方にとっての、かつての児童図書館のような機能というものを、この図書館の中で、そのようなスペースはどう考えるのか、あるいは高齢者が、ここで一番の項目にあげられていた図書館に来て、くつろげるようなスペースの問題とか、そういったところがどうなっていくのかということです。

このサービス計画は図書館協議会に諮られ、図書館で将来計画をされ、教育委員会に上げられてという形ですが、その前に、例えば障害関係など他の部署と、横のつながりのようなもの、例えば高齢対策の課などと連携した協議のような場というもので、どのように図書館として考えるか、全体的な市の策定計画等の中でということです。何よりも市の当局から図書館にどういうふうに期待が寄せられているのかといったようなことの中で、5年間策定していくということがどうなのかということを確認します。

○会長

すぐに答えていただきたい質問はどれでしょうか。

○副会長

これが一番基本だろうと思いますので、財政問題について、今後の見通しはどうでしょうか。

○事務局

大雑把なお話をさせていただきます。財政見通しにつきましては、現在のところ、先ほど御説明しましたように、800億を超えるような山口市としては、かなり大きな財政規模となっております。図書館のほうも、減少傾向ではありますけれども、それなりにいただいているところです。ただ、合併により特例債ですとか、合併関係でプラスになったことが段々なくなってきています。平成33年度以降というのは、かなり厳しくなるという予想はされております。

その中で、現実的なことをどこまで考え、また夢をどこまで見るかということがこの計画でございます。

○副会長

わかりました。伺っているうちに、別のことが頭に浮かんできました。一つは、読書促進ということの中で、大学との連携、具体的に言いますと大学の先生というのは、難しいことしか言わないというイメージがありますが、例えば、文学とか文芸に限られるのかもしれないが、本の中の何かアピールしたいものを講演していただく、しかも難しいことではなく、この本を読めばここがわかるみたいな感じのコンセプトで講演会等を開いて、例えば本の紹介をしていきながら、その本を皆さんに読んでもらうような方向に行くなどはどうでしょうか。ただ集まってくる人は既に読んでいる人が集まってくるなど、またいろいろ課題があるとあります。

もう一つは横との連携ということ言えば、中也館との関係、つまり地元の中原中也などの資料を図書館として独自に集めて、中也館は中也館で独自にやっていくではなく、何かしらお互いの共同性の中で、連携ができないのかどうなのかということです。

最後になりますが、今県大も山口大学も留学生が増えてきています。大学図書館では、調べものための図書というのが中心になっていますが、せっかくですので、例えば山口市の文化や伝統を留学生たちにわかってもらいたい。そのような方向のことができないか。県大はわかりませんが、山口大学で今、多分400人程度留学生がいると思う。全体から言えばまだ少ないですし、言葉の壁もありますが、目を向けていただけたらなということを思っています。

○会長

これについては、副会長中座ですので回答はなしにいたします。

それでは、今、いろいろ御提示、御意見がありまし、大学との連携、小中、それから高校、大学との連携ということ、留学生へなどをうまく活用するということができました。

それから、高齢者の施設についてですが、今のゼミ生が高齢者施設でインタビュー調査をしたみたいですので、読書環境についてどういう形で出てきているかわかりませんが、またお話をさせていただければと思います。

それでは、どなたからでもお願いします。

○委員

23ページです。プロジェクト事業の中で、4つ目、市全域サービス充実プロジェクトというのは、具体的にはどんなことをイメージされているのかなと思いました。

○会長

今考えていらっしゃる市全域サービス充実プロジェクト、まだ案の段階かもしれませんがそれでもお願いします。

○事務局

まだ案の段階ではございますけれども、先ほど申しました市域が広く、地域によってはサービスの差があるところを埋めるために、二次計画では、「ぶっくん」を2台に増車をいたしまして、回っているところでございます。「ぶっくん」の利用というのは、なかなか飛躍的に伸びるようなものでございませぬし、一つのサービスポイントに多くても30分とか20分、そういうような巡回になっております。

移動図書館のあり方の問題を考えていく時期にも来ているのかというのがまずございまして、そういった中で、それ以外の方法も含めて、配本サービスや、交流センターの分館、それ以外の公共施設、民間の施設、そういうところがサービス拠点としてなり得るのかなども研究しながら、全域をカバーできるように進めていくということができないかと考えていくというようなイメージです。

○会長

山口市は、山口県下で一番広いということですので、全域サービスとなるとかなりこれは大変な計画ということではないかと思えます。ほかに何か。

○委員

一番の目指す図書館の姿というので、どんなときも身近に役に立ち、出会いを大切にする図書館とかとありますけれど、これが目標1、2、3にどう反映しているの

かが見えてこない。その後の基本目標とつながっているのかどうか。

例えば身近に役に立つについてはすぐわかります。地域の情報拠点、知的好奇心、はわかりますが、出会いを大切にするとは何を目指しているのか、どういうことで出会いを大切にするというのが出たかがよくわかりません。経緯がわからないのですが、出会いというのは、例えば、基本目標の市民が図書館づくりに参加できるとか、そういうことですか。

○事務局

資料の6ページをご覧ください。二次計画と同じ目標に、図書館の姿にしております。本と人の出会い、人の人との出会いをつくる場所というような意味合いでございます。

人と人、イベントだけが全てではないですけれども、例えばイベントのようなものをやりまして、ビブリオバトルなど、横の人と人とのつながりをつくっていくようなことであったり、もちろん本を紹介いたしまして、本の紹介によって本を読んでいたかような出会いの場をつくるという、そういう出会いという意味合いでございます。

○委員

わかりました。このように何か説明がないと、この基本目標見ただけでは、わからないです。

○事務局

二次計画と同じように、説明をもちろん入れていきます。

○会長

ありがとうございます。私も出会いというのは、本と人とをまず思いましたので、「人と人」となると横のつながりが、少し希薄かなと思うので、プロジェクトの中でも扱っていただけるのではないかと思います。

○委員

先ほどありましたように、高齢者への対応、これもやっぱり続けるといいような気がします。例えば老人ホームに、知っている人が入っていますが、入っている人は、非常に暇で、毎日毎日何をしようかということで、非常にすることに悩んでおられますから、本を持っていったら、本当に読書力が増すと思います。

しかし、高齢者が本ばかり読んでも、将来どうなるかはわかりませんが、そこに「ぶっくん」がいるから、借りてきてくださいとすると難しいところもあります。例えば、老人ホームによっては、認知症の人がおまして、外に出るのは非常に困るということもあるようですから、その辺をどうすればいいか。例えば一定の量の本を置いて、一定期間貸し出して回収するという、そういう形もできると思います。

図書館のサービスとして、高齢者についても、もう少し考えてもらえばよいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

23ページの先ほどのプロジェクトに関してです。蔵書充実プロジェクト、これは本を増やすということで、割にわかりやすいですが、電子図書館サービス、これは結局若い人の需要を満たすための形であろうと思われませんが、そうした場合に、どういうふうな形でなど、少しでも具体的にわかることがありましたら、教えていただきたいです。

○事務局

対象としては、もちろん若い人もですが、電子書籍は、例えばタブレット端末をお持ちの方はわかるかと思えますけれど、拡大をして見ることも可能ですので、また音声を読み上げてもらうこともできたりもしますので、若い人に限ってということではなくて、逆に、自分で電子書籍をどんどん買われる方よりも、ハードルのある方に使っていただく、高齢の方であったり、目の悪い方であったりというようなイメージのほうが強いかなと思っております。

○委員

具体的には、ある程度の計画はありますか。

○事務局

今のところは、まずは研究していくということが大事だと思います。コンテンツが十分にあるのか、価格の面でどうかなどハードルが少しまだ高いと感じております。全国の図書館でも、どんどん導入されているということではないので、周りを見ながら進めていきたいと考えています。5年でできるかということ、難しいかもしれないという思いです。法改正などで急に進むかもしれませんが、今のところは研究ぐらいにしたいとは思っています。

○事務局

著作権等の処理もございまして、図書館で読む本はいいのですが、電子書籍になりますと、図書館で提供するには厳しい著作権上の条件もございまして、なかなか前に進みにくいところがあります。どこの図書館も興味はもっていても、なかなか進まないところなんです。先ほど電子本の話をしたところですが、地域の資料なども手がけていけるような、そこも含めて研究できればというところでもございます。若い人だけのためのものでもございません。

○会長

地域資料との関連で、電子書籍もいいですけど、地域資料が今大事なかと、優先していくことかなと思っております。散逸しないように、今こそ市立図書館はやるべきと思いました。

○委員

基本的な質問ですが、4ページ、三次計画でも「日本一 本を読むまちづくり」というのがありますが、最近横ばい、どちらかというと貸出点数は減少傾向ですけど、これはどのようにして7.5という数字を出しているのですか。学校で子供たちが借りている本の貸し出しもその冊数の中に入るのでしょうか。図書館のボランティアで

休み時間に行っていますが、子供たちはすごく借りています。それが入っているのかどうかお願いします。

○事務局

市民や1人当たりの貸し出し件数につきましては、7ページの年間貸し出し件数というのがございます。この貸し出し件数を人口で割ったものです。

○委員

学校の貸出は入っていないのですか。

○事務局

そうです。公立図書館、市内の6館の図書館の貸し出し件数になっており、全国的にもこの貸し出し件数は、良く使われる基準で、取り扱う条件が同じでないと指標として比較ができませんので、人口で割るというやり方となっています。図書館、市によっては、分館をたくさん持っていて、公民館なども分館の機能を持たせていて、それも貸し出し件数に加えるやり方もしているところもあります。

ただ、学校図書館は法が違い、公立図書館とはいえないため加算できない状況です。

○委員

では、市立図書館で借りるようにしたらいいですね。

○事務局

ちなみに、学校図書館で借りていらっしゃる山口市内の小学校さんは、一人当りで平均50冊超えています。

○委員

まず8ページに関することで、資料の2の2 基本目標3のところ、イベント参加者数というのがあります。先ほど歴史講座がおかげさまで人数が、、、とおっしゃっていましたが、イベントをして、その人数が多ければ、それが成果と、もちろん言えると思いますけれど、もしかしたら、歴史講座をすれば、何回も同じ方が来られて、その都度その数値が高く、成果として上げられるというようも考えられます。逆を言えば、先ほど図書館を利用していない人が約半数、市民の半数だということを考えると、そういう人たちが来られるようなイベントをして、たとえ参加者が少ないにしても、そのほうが意味があるということもあると思いますので、このイベントなら絶対に人が集まると、この参加者数を高くすることをあまり目的にしてもらわなくてもいいのかなと思います。

○会長

数字や数値目標というのは、どうしても多ければ、これが成功かといったことになりやすいものです。その質と量をみると、量の上では成功かもしれないけれども、質などいろいろ考えると、別の方向もあるのではいかということ、これが指標だろうかということですね。

○委員

次は11ページのところですが、子供の読書推進に関して、今回の高等学校、特別支援学校というのが挙げてあるのは大変うれしいと思いましたが、それ以外にも、例

えば児童保護施設、少年鑑別所、児童相談所など子供が関わる施設は、児童相談所など山口市内にもあるので、いわゆる学校だけではなく、そういうところへの連携というの、是非必要となってくるような気がしますので、その辺も考えていただきたいと思います。

○会長

3つ目、お願いします。

○委員

3つ目は、13ページの山口市生涯学習基本計画のところですが。先ほどこの計画の中には、図書館というものの表記がないとおっしゃいました。これは、やはり図書館から意見していただきたいと思うところですが、大きく生涯学習に関しては図書館の位置づけがあると思うので、この基本計画の中に、図書館についてのことは触れてもらいたいなと思いました。

○会長

私もそう思いました。これ、美術館とか博物館も同じように名前が出てない。是非そういうのも含め、図書館も入れていくというのは一つの方策かなと思っております。

○委員

最後は単純な質問ですが、22ページ、三次基本計画の計画の全体像の(2)のところ、基本目標1、2、3があつて、1のところでは、利用者に役立つ図書館と書かれているのが、3のところは市民の知的好奇心、これ、利用者と市民というのをあえて使い分けておられるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

○会長

前には、市民を利用者に今回変えるということだったと思いますが、ここにはおっしゃるように、市民の知的となっていますが、説明をお願いします。

○事務局

前回のときにも少し御意見がございまして、そのときに、利用者というのは、より幅広く考えているというような御説明をさせていただきましたが、市民に限らず、交流人口も増えているところもありますので、山口市以外の人からも利用される図書館を目指していく必要があるのではないかとということで、利用者に行っているところで

基本目標3につきましては、少し狭い意味での市民という形をとらせていただいて、山口市民の方への学習の機会の提供などそういった好奇心を刺激したり、いろいろ機会のある図書館にしたいということです。にイベント、講座を通じて、生涯学習の機会を提供して行くなどを目指したいというようなことで、言葉を変えているところ

○会長

両方出てくると、多分不思議な感じを受けられるかもしれません。

○事務局

補足で、利用者というのが、行政支援サービスということも入れており、団体も含めて考えていくところもありましたので、利用者にしたところです。

○委員

20ページの地域サービス計画の主要な課題というところから全部目を通していただいたときに、全体的にすごく大きな目標で、できるのかなと思いました。

こういう目標には向かっていくけれども、まず何年まではここまでやりたいと思うというように、漠然とし過ぎていて、実際、先ほもありましたように、数値がでて、「できました」という実感がこのサービス計画を読んだ後に、「できた感」が、市民の人も私たち委員も、起こってこないような気がしました。

夢を大きくはともいいですけど、もう少しタイトに、ここまでは理想だけでも、ここまではやりたいというふうに、少しコンパクトにしてもいいと思いました。

もう1点、図書館を利用する人が、図書が好きな人というふうに思われてしまうというところが、1回も利用したことがないという人が半分いるというところにつながってくるのかなと思っており、地域が元気になる、これだけ図書館があるというのはすごくいいことだという、図書館を使ったことがない人に向かってのアピールも少し書いたらいいと思い、連携やつながるといふ、優しい言葉も入れてほしいと思いました。

そのことに関して、23ページの4のプロジェクト事業の6番です、このサービス計画というのが、行政の人に向けたものではなくて、市民に向けたものでもあるということで、行政支援サービスという言葉ではなく、まちが元気になるなど市民が自分たちにも関係しているんだというところのものを出してほしいと思いました。

○会長

ありがとうございます。もう少しコンパクトに理想、現実も伴うようなこと、つながるとか連携、連携という言葉、つないでいくという言葉、私も常々考えております。行政支援、これは外さなくてもいいかなと思います。もう一つまちづくりや市民と協働などについては、図書館づくりに参加できますなどと書いてありますけれども、その辺がもしあればというような意見であったと思います。

学校の視点からでも結構ですし、どこからでもお願いします。

○委員

中学校に勤めているので、一層学校のことでというところもありまけれど、先ほどありましたように学校図書館を使っての利用が勤務先の中学校も多くて、今は年間25冊を目標に読書活動をしています。読書が好きな子は、どんどん25冊以上も読んでいて、朝読書の時間帯や昼休みなど自分たちの読める時間を使って、いろいろ読んでいますけれど、なかなか読書の苦手な子は、朝読書の10分間だけでとどまっていたりすることが多くで、差がどんどん開いているようにも思っています。

市立図書館さんには、ブックトークをお願いして来ていただいたり、毎月50冊、本を貸していただいて、いろいろ触れ合う機会を持っていますけれども、読書が苦手な子が好きになるような「この1冊」などがなかなか見つからず、図書館の先生と苦

労しながら見ているところです。このプロジェクト事業で、図書館支援サービス充実プロジェクトと掲げてあるので、もし読書が苦手でもこういう取り組みをやってみたらどうだろうなど、そのようなものがもしあれば、聞かせていただけたらありがたいなと思います。

○事務局

プロジェクトを考える中で、図書館の中でいろいろ議論をしたところではありまして、なかなか中学生へのアプローチというのは、中学生自体も忙しいですから、難しいなというところも感じています。例えば、中学校へ50冊団体貸し出し、配本しておりますが、読みやすい本を入れたり、冊数本をふやしていったりということや、学校図書館の支援をしていくということで、市立図書館から出向いていく、ブックトークにも行っていますけれど、そういったブックトークをできる人を育成するようなことを支援できないか、学校図書館の運営について、アドバイスできるような人を講師に呼んできて、講演会を来ていただくようなことを仕立ててみるなどプロジェクトを協議するなかで話が出たところです。

また、学校図書館のボランティアの方も、たくさんおられると思いますけれども、排架のやり方、ブックトークのやり方講座などをしてみるなど、側面的な支援が図書館としてはできるのではないかというようなことを話し合ったところです。

ブックリストを図書館でつくって、読みやすい本、読みたくなるような紹介をするというようなことも支援になるのではないかという話は出たところです。なかなか難しいと正直思っています。

○会長

ぜひとも図書館の中だけで考えられずに、中学校の方の利用が上がると思いますので、出向いて、先生方からインタビューしてみるというのも一つの手かもしれない。

○事務局

今の取組みとして、指導員研修会にできるだけ参加して、現場の声を聞くようにはしております。学校まではなかなか行けていないところではございます。

○会長

出張されるのも、一つの手かなと、現場の声ということで、お願いできればと思います。

○委員

小さいことですが、蔵書の充実と、学校の方で読まない子供に読ませるひとつの実践方法として、東大とか京大にたくさん入学者を出した学校で、英語の本を朝の読書の時間に読ませるということをされてどんどん力がついていったということがあります。ただ、英語の本といっても、難しいものを読めるわけではないですから、例えば絵本的なもの、英語だと格好がつけられるから、ちょっと手にとってみようかなと思えるような、チャンスを与えるという意味でも、英語の絵本とか、外国では小学校が読むぐらいの、赤毛のアンなどをそろえて、学校へ貸し出しをすると、子供が興味を

持って読むのかなという気がします。

○事務局

学校の団体貸し出し用の本を考えるとときに割に取り入れやすいものかなと思いました。

○会長

中学校のときに、英語で読んだのは覚えているのでそういうのも実際あったら、とっつきやすいと思います。

○委員

学校などに団体貸し出しをしておられますが、その時に、例えば学校が広島についての本を貸してほしいなどテーマがあると思います。図書館で本を貸された後で、学校側がこの本はよかったと、この本はちょっと生徒のニーズに合っていなかったなど使われた感想というのは、聞かれていますか。それが総合的にできれば、なかなか学校は学校、図書館は図書館でそれぞれ顔を合わせて話をするのは難しいと思いますが、リストのそばに使用された感想とか効果などつけて返してもらうようにすると、また図書館の蔵書の参考にもなると思います。

○会長

交換日記ではないですが、ちょっとした無理のない程度のコメントが1行でもあればいいと思いますが、難しいですか。

○事務局

具体的に書いていただくということはやっていません。担当が意見として聞くことはあるかもしれませんが、それをまとめているようなことはしていないと思います。

○会長

時間もお金もかからない提案でしたが、負担があってははいけませんので、御検討いただければと思います。

ほかに何かございませんでしょうか。是非私からは、学校図書館支援サービス充実プロジェクトの中に、指導員とおっしゃったけれども、学校司書という文言で入れていただきたい。今後山口市の教育委員会などでも、指導員のままではなくて、学校図書館法で法制化されたものですから、それを使っていたいただきたいという要望があります。

高齢者についてですが、施設に回るということと、団体貸し出しについては学校にもハードルを低くしているので、施設にも低くして回していくというのも必要なことだと思います。年をとられても、何歳になろうと、ばりばりなさる方もいらっしゃいます。そういう方たちはきちんと活躍の場というのを見つけていらっしゃって、どんどん私たち引っ張ってくださっていますけれども、もしかしたら、元気な方でも活躍の場というのが、まだ見つけられない方もあるかもしれないので、保護が必要とか、福祉的な支援が必要というのではなくて、元気なお年寄りを、山口市立図書館はどここの図書館でもどんどん活躍の場を設けていただければと思います。

○委員

最近は、認知症予防に役立つ図書館の活用術など結構話題になって、研究されているのを見たりというのも多く、あちこち拝見して、秋穂図書館で何かできないだろうかと、いろいろ思っています。移動の手段がない人や、足が不自由になった人にどういうふうに図書館サービスが続けられるとかいろいろ考えています。

実は、ずっと前から地域資料ということも含めて、古い写真をパソコンに取り込んで、アルバムのようにして、見てもらいながら知っていることをしゃべってもらうことをやっています。自分の集落の集会所なら来られるという方があるので、今貸し出しをする準備をしています。まだ集落ではなかなか活用のところまで、趣旨が徹底していないのでできませんが、私が住んでいる集落では、老人会をやるときに、「それ持ってきてね」と言われているので、広がるといいなとは思っています。今日配ったちらしに「思い出がたり」というのがあります。単なるおしゃべりもあるけど、知らなかった町史なんかに出ていないような、経緯など結構しゃべってくださる方があり、そういうのをまとめられるといいかなと思っています。

だから、高齢者向きのというのは、まとめたの話ですけど、秋穂では布絵本を作っていて、縫ったりするのが好きな人は、月1回のその日は張り切ってくるというのがあるので、そういうのも広がるといいかなと思っています。特技を生かした取組を図書館に寄贈すると、布絵本などは小さい子を連れてこられたお母さんにとっては、すごく柔らかい感じがするみたいでとても喜ばれる、このような特技を生かした取組みや新しい取組みで、高齢者は高齢者なりにできることをどう見つけていくか、図書館もどうつなげていくかということです。それは図書館の本そのものではなく、例えば植物を鉢に育てて、届けてくださる方もあるんです。そういうのもありなのかなと思っています。

いろいろな処でいろいろな例を聞きながら、自分のところでどういうものができるか、例えば保健師さんとコラボした健康体操みたいなのも、図書館の一角の入り口の辺でやれば、「健康体操にいらっしやい」と聞いてきた人も、ただ来てみたら、何かやっているというふうなのもありかなと思います。

○会長

ありがとうございます。今のお話の中に、それこそ居場所みたいな、憩いの場というようなところがあると思います。

22ページから23ページに、サードプレイス、先ほど御説明がありましたけれども、学校でもない、家庭でも自宅でもないというようなところ、第三の場ということで、憩いの場、交流の場ということだと思います。居場所ということです。

それにつきましては、これは賛否両論あるかと思っています。市立図書館をそういう場所というのを考えるのはどうなのという方もあれば、今全体的にはそういう流れもあったりしますので、皆様からこれについても御意見等があればいただければと思います。

○委員

以前ソファが中央図書館にありましたが、それをいつも高齢の男性の方が横になっ

ていらっしやるので、撤去されました。居場所といったときに、それが思い浮かびます。前々々ぐらいの館長さんがいつもこぼしていらっしやる姿を、居場所は居場所、素晴らしいことですが、行って本を読むということは良いことで、行けるだけでも素晴らしいと思いますけど、占拠されると困ります。その辺は考えなくてはいけないことではあるのだろうなと思いました。

市全域サービスに関して、いろいろ言われましたけど、例えば民間施設で、民間の老人ホームでも、体は不自由でなくて、自宅ではむつかしくて入所されている方がいらっしやるところなどに、配本サービスができたらしばらしいなと思います。すごく知的好奇心がある方がいらっしやって、読むものを自分では買いには行けないけれども、向こうから来て、これを借りたいといったら届けていただけるなら、そういうサービスがあることがわからない方もいらっしやると思うので、いろんなサービスがあるというのを知らせることは大切なことだなと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

サードプレイスにつきまして、居場所が確かに必要かもしれませんが、各図書館きれいにしていますから、ごみ一つないし、張り紙なんかもきちんとして、行きやすいのですが、居場所、やっぱり体を横にするということを考えてはいかんなと思いますし、そうすると、居場所としても考えなくてはと思います。

もう一つは、学生は本を広げて勉強している。あれも居場所の一つだろうと思いますが、県立図書館はものすごく多いです。高校生が一部屋占領してます。場所として考え方を変えないといけないと思いますが、学生が本を広げて勉強することにつきましては、どういうふうに思われますか。

○事務局

学生さんが図書館の本の活用ではなくて、自分の試験勉強をしているということについては、古くて難しい問題でございます。

○会長

ここで助け舟はいけませんが、多分回答は難しいかと思います。前は学習室というのは図書館に設けていましたが、それがだんだんなくなり、小中高校生が席だけ借りて受験勉強するということに対して、かなり批判されたりしてきました。今はまた、高校生、中学生の居場所というか、それは寝そべる意味ではありませんが何かそこに行って、図書館の雰囲気味わいながら、そこで勉強するというふうなことも、考えられるようになってきています。また学習室というようなことが設けられなくても、そういう考えや設けようという方向性も出たりしているところですので、図書館側は、今後御検討いただいて、中高校生の場合、考えるとすれば、どうしたらというふうなところを考えていただければなと思います。

このままサードプレイスという言葉を持っていくような感じですか。

○事務局

今のところはそうのように考えています。もっとわかりやすい言葉でということになれば、また皆さんから御意見をお聞きしながら、変えていくということも考えられるところです。

○中村

サービス計画の中に載せることかどうかわかりませんが、災害や危険が起こったとき、いろんな方が来られる場所なので何か起きたときの対応についてサービス計画の中に、今はないですね。

○事務局

危機管理ということですか。マニュアルは整備しております。もちろん項目として危機管理的なところは、載せる必要はあると思いますが、具体的にどうするかは、マニュアルで示すことになろうかと思います。

○委員

これだけいろいろある時代なので、例えば利用者も巻き込んだ避難訓練などサービス計画の中に、そういうことは盛り込んでもいいのかなと思います。

○会長

またその辺の御検討をお願いします。

○委員

23ページの各図書館の役割、サービス範囲というところで、1、2、3と中央館、拠点館、地域館とあります。利用者の方、市民の方からしたら、中央館と地域館というのはよくわかりますが、拠点館というのは、多分イメージしづらいと思います。私は小郡図書館をよく利用するので、小郡図書館が拠点館であることを、もっとこのサービス計画のところに肉付けをしていただきたいと思います。

○会長

その辺を御検討いただければと思います。

それでは、まだまだ御意見等あるかと思いますが、これ、いつごろまで、何日まで、そんなに長くはとれなどは思いますので、今週中でどうでしょうか。

○事務局

今週中は余りにも申しわけないので、10月早めをお願いします。

○会長

もし御意見があれば、1週間後くらいまでに出していただけますか。

○事務局

意見があれば、10月2日の月曜日までをお願いします。出し方としては、メールでいただいても構いませんし、もしメールが難しければファクスでも構いません。題目にサービス計画についてということと、お名前を必ずお願いします。

○会長

それでは、10月2日の月曜日までということで、もう一度ゆっくり読んでいただきまして、御意見を出していただければと思います。

それでは、その他になりますけれども、イベント開催における利用促進状況や、平

成28年「ぶっくん」のイベント参加状況、中原中也館との横のつながりということで、生誕110年記念行事について事務局から御説明をお願いいたします。

○事務局

それでは、資料につきまして、御説明をいたします。

まず、前回の協議会におきまして、御意見や質問を賜っておりました何点かにつきまして、資料を用意しております。資料番号3の1から3の4までを御説明いたします。

まず、イベントを開催した効果について、イベントの後の利用者の増減についての月別での数値等の推移でお示ししたものでございます。

このイベントの実施につきましては、先ほど御意見もありました日ごろ利用していただいている方々へ楽しんでいただくこと、そして日ごろ図書館を利用されていない方々に読書のきっかけ、契機となるという目的を持ちまして、新たな利用者の開拓、これを目的として実施をしてきております。

3の1の資料です。3の1では、平成26年から29年にかけての月ごとの、新たに登録していただいた新規登録者をグラフにしたものでございます。積み上げグラフとすることで、通年を通しての月ごとの増減の推移がこれから見えてくると思います。

年度の前半はだいたい右肩上がりで推移しておりまして、9月から後半にかけては下降線という形になっております。

各館で実施しておりますイベント等につきましては、8月に阿東、秋穂図書館まつり、11月に小郡、徳地、中央の図書館まつりを実施いたしております。3の1のグラフでは年度の前半、後半の中で、広範囲の中では、実施している月というのは、高い数値を示しております。

また、3の2の資料は、利用者、入館者数ですが、利用者数の推移を示しております。これも先ほどとほぼ同じような傾向にはありましてやはり9月から12月にかけての下降線が予想される中で、11月のイベントを実施することで利用者が伸びてきておるとい部分があります。

また、先ほど御意見がありました数値だけにこだわらず、新たな利用者を開拓していくという部分も、かなり大きな意味合いを持つと思っております。

市の人口は減少傾向にある中で、イベントを実施したからすぐ効果が現れるということではありませんが、継続することで、減少に歯どめをかけて、徐々にではありますが利用者数へつながってくるものとして、このイベント等は実施しているということでございます。

続きまして、「ぶっくん」がいろんなイベントに出向いているという取り組みの平成28年度実績についてでございます。資料番号3の3で、「ぶっくん」が各祭り等に参加した場所は28年度では12カ所でございます。そして利用者数、貸し出し冊数はお示ししているとおりで。

これは今年度においても、「ぶっくん」を祭り等へ出しまして、「ぶっくん」にも入

っていただいて、本に触れていただくという形の取り組みを実施しております。

引き続きまして、資料3の4ですが、これは中也の生誕110年の取り組みについてです。前回の段階では詳細等まだはっきりわかっておりませんが、詳細等がわかってきましたので、ここで御案内をいたします。

中原中也生誕110年の取り組みといたしまして、文豪ストレイドッグス×中原中也記念館と題しまして、スタンプラリーが実施されます。この文豪ストレイドッグスとは、実在する文豪をモチーフにして、キャラクターたちが現在の横浜を舞台に活躍するものです。9人の文豪のスタンプを湯田温泉エリアに配置いたしまして、スタンプラリーに挑戦していただくというものでございます。

その中で、中央図書館もラリーポイントの一つとして位置づけられておりまして、中央図書館では宮沢賢治のスタンプが配置されます。

ラリーポイントとしまして、中央図書館がありますが、中央図書館の中では、専用ののぼりほか、バナー（84センチ×3.4メートル）を館内に掲示いたしまして、そのコーナーは、写真撮影等もオーケーといたしまして、しっかり写真等も撮っていただいて、SNS等に発信をしてもらって、それを見られた方が来館していただくきっかけづくりになればという形で取り組んでおります。

そのコーナーの斜め前のレノファのコーナーも撮影可能でございまして、しっかり発信していただくということを考えております。

また、中央図書館以外の館でもバナーを掲示する予定としております。

また、これに伴いまして、中央図書館独自の取り組みで、文豪ストレイドッグスの作品の中で対決する、中原中也と宮沢賢治を取り上げました「中也VS賢治」という企画展示を9月29日から11月23日まで行います。

本の展示にとどまらず、今回はキャラクターへの思いというものをパネルに張ってもらう市民、利用者参加型の試みという、初の試みも行います。

この文豪ストレイドッグスは、登場人物が国内外の著名な文豪、作中での特殊能力の代表作の名を冠してございまして、今の若年層の方々というのは、なかなか現代文学には関心がないという部分がありますが、この作品が世に出たことで、かなり新たな読者というものも増えていると聞いております。

図書館の利用率の伸びなかった若年層の来館をこのイベント等で期待しておるということでございます。

以上、3の1から4までの資料は以上です。また、それ以外にお手元に配付しておりますパンフレット等につきましては、これはお帰りになられてお時間があるときにゆっくりご覧いただけたらと思っております。

私からの資料についての御説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございます。中村さん、図書館まつりでコラボされるということですので、御紹介をしてください。

○委員

友の会「トネリコ」と「ぶどうの木」が一緒になって、中也からのメッセージというタイトルで、図書館まつりに来館されて本を借りられた中学生以上と見られる方に、カウンターで中也の詩のフレーズを織り込んだ徳地和紙のしおりを200枚ほどつくってお渡しするというふうに考えています。

○会長

これは企画ですので、小学生にもあげてほしい。東京にこの前行ったとき地下鉄でも、スタンプラリーをやっている、やはり一つの流れがあるのかなと思っています。高齢の方たちにもぜひ参加していただいて、押していくというのもいいことかと思えます。やはりメッセージを書かれた方とか高校生なんかの反応を聞きたいですね。

○委員

全く別件ですけれども、ワイワイ図書館というDVDをつくりましたが、各館のどういうふうな反応があったのでしょうか。ああいうのをつくって、よかったかどうか、御意見をいただきたいと思えます。

○会長

ワイワイ図書館を全部回られてつくられたことについてのご意見をお願いします。

○事務局

ありがとうございました。委員さんが、撮ってくださるものは地域の資料としても大事です。図書館の記録、まだまだうちの図書館は若いと思っていましたけど、もう15年になります。図書館の記録というのはきちんととっていないといけないということ、改めて認識しているところでございまして、引き続きよろしくお願ひしたいと思えます。

○委員

各地域で絶対記録として残しておきたい行事があったら声をかけてください。行ける範囲でやってみたいと思えますが、大きな行事で、こういう伝統的な行事は残したいというのがありましたら、声をかけてみてください。余裕があったらお手伝いします。

○事務局

平成15年に委員さんに祭りのテープを撮っていただいて、館内で利用しております。このテープも劣化の心配がございますので、デジタル化を御相談をさせていただきたいと考えていまして、よろしくお願ひいたします。

○委員

宮沢賢治と中原中也の展示に関連して、いつもテーマで本の展示されていて、おもしろいテーマで興味深く見させていただいていますが、貸し出しが多く、本の内容を書いてありますけど、本の姿が見えないので、できたら写真もあるとうれしいと思えます。内容と表紙の写真ぐらいだったら、著作権に触れないのではないかなと思えますがどうですか。

表紙があるとより身近に感じて、次に戻ったら読みたいとか、予約したいと思う

のでお聞きします。

○事務局

一応出版社に許可をとりながら、表示している部分があって、あのような状態になっています、許可をとってやっているということもあり、ご提案のとおりできるかどうかわかりません。

○委員

わかりました。大抵、何も本がなくて、いつも残念と思っています。

○委員

すばらしい取り組みと思って、いつも拝見させていただいています。

利用者の推移について、グラフを拝見しますと、これで見ると8月が断トツですよね。ということは、夏休みで子供たちが来る。そして子供たちは来ても図書館には入らないかもしれないけど、館内でお勉強したり、いろいろやっている。そういうところで、この中身を分析していくと、利用者の年代などがある程度わかる。そうすると、それを利用して、生徒、子供たちに呼びかけをすとか、何かここから一つ、増やす方法があるのかなと思います。

私、普段は自分の好きな時間に行っていますが、会議で10時前に来ると、夏の暑い日15分前ぐらいから皆さんがあそこに立って開くのを待っていらっしゃるんです。中は涼しげなのに、外はかんかん照りのなか待っている。もちろん開館時間というのがあるから、10時でないとかかないのだろうと思いますが、これから先、寒くなったときに、外で待っている人たちを見るのがつらいなという思いがします。

私たちは、通用口を通らせてもらって、中へ入っていったりできますけど、10時という、開館時間の前に来られた方に、何かできないものかなと感じました。

○事務局

施設の状況によりそこが難しいところです。中央に関して言えば、複合施設ですので、兼ね合いがあって、図書館のためだけに早くあけてもらうのはなかなか難しいですけど、今も5分か10分ぐらい前には玄関の鍵はあいて、入れるようにはなっています。

○会長

皆様方、どうもありがとうございました。まだまだ御意見等あるかと思えますけれども、第三次計画については、先ほど申し上げたように、それから日ごろからでもお気づきがあれば、直接図書館のほうに、お申し出いただければと思います。

今日は館長さんがたから御発言いただかなかったんですが、また次回にでもいただけたらと思います。

それでは事務局にお返しします。

山口市立中央図書館

TEL 083-901-1040